

辻 哲也 (編著)

がんのリハビリテーションマニュアル 第2版 周術期から緩和ケアまで

田村和夫

福岡大名誉教授

2021年9月、本書が発刊された。初版から10年がたち、がん治療の進歩とともに、がんのリハビリテーション（以下、リハ）はエビデンスが蓄積され、標準化が進み改訂に至ったものである。がんに関わる全ての医療者が、がんリハ専門家の指導のもとでがんリハを実践できるように記載された本書をぜひ推薦したい。

評者は半世紀にわたり化学療法の創成期から現在のゲノム医療まで共に歩んだ腫瘍内科医である。当初、がんを治すことをめざし、徹底した治療を行っていた。ある時、精巣腫瘍の高校生を診る機会があり、脱毛がいやで治療に消極的だった彼を説得しシスプラチン併用療法を開始した。悪心・嘔吐（CINV）が強く心身の疲弊から「もう、許してほしい」と懇願され、治療が完遂できなかった。その後、有効な制吐薬が開発されCINVは制御できるようになった。このような支持療法はがん対策推進基本計画の重要な施策の1つに掲げられているとはいえ、系統立った教育、研究、診療が不十分な領域である。

その中でがんリハは、最も成功している非薬物的支持療法である。その理由の1つ目は、リハが病院の診療部門として機能し、その基盤の上になんりハが導入されたこと。2つ目は2007年度からがんリハの系統だった研修プログラム（CAREER）が開始され、2010年度になんりハ料が診療報酬上で算定可能となったことである。各施設のがん診療チームが本研修を終了していることが算定の要件となっていて、がん診療連携拠点病院のほぼ全ての施設でがんリハが導入されている。

本書は、辻哲也先生をはじめ執筆者の多くがCAREER研修の運営にかかわり、豊富ながんリハの経験をもとに記載されており、「マニュアル」にふさわしい内容となっている。まず、がんリハに必要な基礎的な知識が得られるようがんの病態・治療、リハ診療の概要の記載から始まる（第I章）。その後、具体的ながんリハに入り、各節（原発巣、症状、ライフステージ別）の冒頭に「ここがポイント」⇒診療の概要⇒リハのアプローチ⇒ケース紹介と系統立って記載されている（第II章）。経験の

少ないセラピストも自信を持って治療に当たることができる内容である。さらに基本的な技術に関するWeb動画33編が閲覧でき、それを利用して日常診療の中でアドバイスができる。

がん罹患者の多くは高齢者であり、サルコペニアや心身の脆弱例ではがん治療が十分にできず、まさに「がん共生」することになる。また上記、精巣腫瘍の例のようにAYA世代は成人とは異なるアプローチが要る。本書ではこれらライフステージに応じたりハ、またがん悪液質、緩和ケア中心の患者のリハにも果敢にチャレンジしている。今後、外来がんリハ保険適用獲得のための有用性の検証、さらにはがんの軌跡（trajectory）に応じて対応できるような人材育成と体制づくりを期待したい。本書はその基盤となる包括的な実践書であり、病棟・外来に置いてぜひ参考にしていきたい。

●B5/頁436/2021年09月

定価：5,500円

（本体5,000円＋税10%）

[ISBN978-4-260-04643-5]

医学書院 刊